２０２０年度　第１回講演会　記録

日　　時	2020 年 10 月 10 日　13：00～16：00
会　　場	此花会館梅香殿
講　　師	関西外国語大学　教授　佐古和枝先生
演　　題	自然とともに生きる縄文人の心と技
備　　考	会場受講者 138 名＋オンライン受講者 42 名＝180 名　　記録　飯田正恒

はじめに

【田中克先生】

本講座は人と人の確かなつながりの環を広げることを根幹に据え、多様な分野の講師の先生方にお話しいただき、講師の先生方との繋がりから新たな繋がりが生まれる形でその後の新たな講演の道が開かれることも起こり始めています。３年前に鳥取県下において自然と文化を学ぶ観察会に行った際に、鳥取県ご出身の考古学者佐古和枝先生を紹介いただき、また青谷の上寺地遺跡資料館で考古の世界に触れたことが背景にあります。

私たちシニア世代にとって本当に大切なものは何かを見つめ直すことは、今本当に大事な時代を迎えています。先日来大きな問題になっています日本学術会議会員問題では、この国のトップは「総合的俯瞰的に・・」などと、あたかも水戸黄門の印籠のように振りかざしています。本来、総合的俯瞰的とは、多様な意見を評価し合いお互いが対立を乗り越え協調していく全体調和性を大事にすることだと考えられますが、残念なことに政府に批判的な意見を持つ委員を排除する方便に使ってしまう「総合的俯瞰的視点」を見失った浅はかさを露呈したものと言えす。

このようなときに、今一度私たちが歩んできた歴史を学び直し、失いつつある大事な原点を見つめ直すことには大きな意義があり、本日の佐古先生のお話しを楽しみにしています。

【佐古和枝先生】

地球環境自然学講座はどういう活動をされているのか、ホームページを見ると自然系の講義が主ですが、考古学は自然との関連を抜きに語ることは出来ませんし、先程の田中先生のお話しで「原点」を確かめることの大切さについてお話しされましたが、考古学の世界を取り上げていただいたことを大変うれしく思っています。

最初に自己紹介します。私は米子市の出身です。1997 年、大山山麓に妻木晩田遺跡という日本最大級の弥生遺跡がゴルフ場開発で発見されました。調査が終われば潰す計画でしたが、こんなすごい遺跡をつぶしていいのか痛感しました。日本のあちこちで、発見された遺跡の保存を訴えてもなかなか希望がかなわず連戦連敗なのですが、黙って見ているだけで何もしなかったら私も同罪であると考え、思うことを全部やってやれと、地元の市民と遺跡保存運動に取り組みました。２年ほど経過した 1999 年、遺跡を全面保存するとの発表がありましたが、遺跡保存活動の歴史から見て奇跡的なことでした。

遺跡の保存が決まれば保存運動グループは解散するのが普通ですがそこで終わらず、「遺跡が残ってよかったね」と言って貰えるよう、活動目的を遺跡の保存活用に切り替え、「むきばんだ応援団」を立ち上げ、副応援団長に就任しました。遺跡の理解と支援を拡げるため、市民講座「むきばんだやよい塾」（現在まで 21 年活動）や植物観察会「むきばんだを歩く会」を企画運営しています。

自然とともに生きる縄文人の心と技

自然と人の付き合い方の原点はやっぱり縄文人だと思います。縄文人のこだわりを理解するには、その前後の時代を知る必要があります。

１．列島の人類史の流れ

ざっくりとその流れを説明します。人類はいつ誕生したのか、尾本恵市先生は約 700 万年前と説明されたのではないかと思います。一方、考古学では人が作り使用した物に基づいて人類の歴史を復元していきます。確認できる人工物で一番古いのは約 260 万年前にアフリカで作られた石器で、この時から旧石器時代が始まります。

旧跡時代は前記と後期に分かれます。日本列島には後期旧石器時代の約 4 万年前から人類が住み始めました。2000 年に発覚した旧石器捏造事件は、日本の前期・中期旧石器時代の遺物や遺跡だとされていたものが、発掘調査に携わっていた考古学研究家の自作自演・捏造でした。最近ＮＨＫのアナザーストーリーという番組で、石器捏造事件から 20 年経過し現在はどうなのかを取り上げていました。この事件のため研究は 20 年遅れたといわれています。この事件後は捏造の疑いを持たれることなく、遺跡発掘が行われており、その数は 1 万箇所以上あります。狭い日本にこれだけ旧石器時代の遺跡があることはすごいことで、広大
な中国でも 5,000 箇所程度です。

旧石器時代は今よりうんと寒い氷期といわれる時代ですが、その後地球の温暖化が進み、人びとの生活スタイルが変化していきます。15,000 年前から縄文時代に入ります。この年代は研究者により若干変わり、16,500 年前、あるいは 16,000 年前という研究者もいますが。15,000 年前より新しくはならないであろうと思います。年代測定技術の進歩により測定精度が飛躍的に向上したからです。以前には 12,000 年、あるいは 13,000 年と記載した本もありました。

紀元前 9～8 世紀に水田稲作が始まり、社会が大きく変った時代です。この年代は研究者によりばらつきがありますが、私は紀元前 9～8 世紀と考えます。弥生時代といわれる時代です。さらに時代が進み、紀元前 3 世紀後半になると前方後円墳が出現し大和政権が成立し、古墳時代となります。このような時代の流れのなかで縄文時代を取り上げます。

◆ 旧石器時代

旧石器時代は人類が最後に体験した氷期で、日本列島の平均気温は現在より 7～10℃低く、鹿児島と札幌の年平均気温の違いほどの差がある寒い時代で、海水面が 100ｍ～120ｍ下がりました。完全ではありませんが、大陸と日本列島が陸続きになる所が現れます。最も寒くなったのは約 2 万年前で、陸地間の距離が短くなり、冬に海水が凍ると歩いて渡れるようになるので、この時期に縄文人が大陸から日本列島に渡来したといわれていました。ところが、近年の発掘調査や研究の結果から、最寒冷期よりも早い時期に日本列島に人類が存在したことが明らかになりました。約 4 万年前に海を渡って来たと考えられますが、この当時、木を削って丸木舟を作ることができるほどの頑丈な石器は見つかっておらず、どのようにして海を渡ってきたのかは謎です。国立科学博物物館が実験航海など行い研究しています。

この時代、食用植物が乏しいため、人々はナウマンゾウ、オオツノジカ等大型獣を狩猟しながらの移住生活を送っています。狩に使用した石器には地域性が見られます。

地域	石材	形状
北海道	黒曜石	広郷型ナイフ形石器、細石刃
東北	硬質頁岩	東山型ナイフ形石器、杉久保型ナイフ形石器
関東	黒曜石	切出型ナイフ形石器、角錐状石器
近畿・中国・四国	サヌカイト	国府型ナイフ石器
九州	サヌカイト、黒曜石	剥片尖頭器、台形石

（堤隆　『列島の考古学　旧石器時代より』）

最近急速に広まってきた年代測定法の氷床コア（グリーンランド）で過去 16,000 年の気候変動を分析すると、2 度の寒冷期を経て気温が上昇し、6,000 年前の縄文時代にピークに達し、以後緩やかに低下しています。（レジュメｐ.1　図 51 参照）

◆ **縄文時代**

15,000 年前に氷期が終り、自然環境や生活環境が変わることによりこれに適した新たな生活文化が生まれました。ｐ.2 の世界年表（春成秀爾等、東京大学出版会）によると紀元前 9,000～7,000 年前、ヨーロッパや東アジアに農耕社会が成立、新石器時代と言います。この時代を日本は縄文時代と名付け、狩猟・漁労・採集社会で、農耕はしていません。紀元前約 500 年まで約 1 万 3 千年間続きました。なぜ、狩猟・漁労・採集社会をこれだけ長く続けることが出来たのか？　日本で農耕が始まるのは紀元前約 500 年前、弥生時代になってからですが、他の国々の農耕社会の期間と比較して非常に短いのです。日本で農耕社会が成立すると短期間に王権が成立しましたが、この背景には縄文時代の社会の成熟度が高かったことがあると思われます。

２．縄文時代の自然環境

（１）日本列島を取り巻く環境

温暖化による環境変化により、現在のような自然環境（海水面の高さ、列島の概形、気温、気候、動植物相）が成立した時代で、植物や魚介類の食用利用が可能になり、狩の獲物を追って移動生活をしなくてもよくなり、定住生活が可能になりました。（レジュメｐ.2（1））

（２）環境の変化と遺跡の盛衰

東日本にはブナ、ナラ、トチなど落葉広葉樹林が多く、食料になるどんぐりが、川にはサケが遡ってきて動物性たんぱく源が得られるなど、自然から得られる食物資源が豊富にありました。一方、西日本はカシ、シイ、クス、ツバキなど常緑広葉樹林で占められ、食物資源が少ないことから人口が少なく、中国地方最大の縄文集落でも竪穴住居の数はわずか 4 軒です。遺跡の密度（数、規模）をみても圧倒的に東日本に多く、西日本は到底太刀打ちができません。

縄文の後期、晩期になるとまた気候が寒くなり遺跡が消えていきます。

◆ **縄文海進**

海水面がどれくらい上がったかを、貝塚の分布から推定することができます。温暖化のピークが 8,000 年から 7,000 年前にかけてあり、平均気温は現在より 2℃高く、海水面は 5m上昇しました。関東の貝塚は、単に食べた貝殻を捨てたというようなものではなく、高さ 3m、直径 40 数mの規模なので、海がここまで迫っていたと考えます。この貝塚のある位置を線でつないでいくと当時の海岸線が分かり

ます。一番奥は埼玉県所沢まで海でした。大阪湾の縄文海進も海水面が 5m上昇したと推定されます。海水面が現在より 5m上昇すると皆さんのお宅は大丈夫ですか？気温の変化は花粉分析により、どのような植物が生えていたかを調べ復元をしています。

３．縄文人の生業①　狩猟

縄文遺跡で出土する動物や鳥の種類は地域や地形により異なりますが、多いのはイノシシとシカです。狩猟の対象は食べておいしい動物だけでなく、いろいろな動物が対象になっています。狩が特定の動物に偏ると絶滅の危惧があるので、これを避ける配慮から多くの種を狩りの対象にしているとの説があります。　（狩猟の目的、狩の方法、矢じりの素材などレジュメｐ.3～4 に記載）

【休　憩】

４．縄文人の生業②　漁労

漁労は縄文人にとって大切な生業です。世界最古の釣り針が石垣島で見つかっていますが、縄文人は種々の魚、海獣、貝を食料にするだけでなく、道具の素材（釣針、ヤス、アワビ起し等）、装身具の素材（腕輪、首飾り、ペンダント等）などに利用していました。漁法、漁具も獲物に合わせて工夫し、現代人が使っている漁具の基本は全て縄文時代に揃っているといわれます。

サメやクジラの骨も出土します。クジラは、沖合に出かけて捕獲するのではなく、病気になり海岸にたどり着いて死んだ「寄せセクジラ」の骨を釣り針に利用し、椎骨を土器作りの回転台に使用した例があります。イルカ漁も行われていました。

◆　貝塚

貝塚は多くの貝殻を捨てた場所です。石灰分があるので貝塚に、埋もれる動物の骨や魚の骨がよく残ります。貝塚を調べると、当時の人びとの食材などが分かり、考古学にとって宝の山なのです。壊れた土器や石器なども出土するので「ゴミ捨て場」とも言われてきましたが、現在の解釈は「役目が終わったもの」を神（自然）へ感謝しながら送り返す「送りの場」であるとの見方が有力です。

東京湾や千葉県には特定の貝の大規模な貝塚があります。普段の食事で食べた貝ガラにしては多すぎるので、村人が協力し保存食として「干し貝」を作った場と考えられています。この地方は石器に使える堅い石材が採れないので、干し貝を生産し交易品にしたのではないかと考えられています。代表的な貝塚に千葉県加曾利貝塚があります。（レジュメｐ.4～5 参照）

５．縄文人の生業③　植物採集・栽培

（１）植物利用の多様性　～　多様な植生とそれを利用する知識と技

旧石器時代と随分様相が変わってくる分野です。当時の日本列島で確認された木の種類は約 300 種（ヨーロッパでは 30 種という）といわれ、豊かな日本の自然のなかで多様な植生を活用する知識と技を持っていました。（レジュメｐ.5 参照）

（２）食料としての植物利用

旧石器時代、食べられる植物は少なかったが、縄文時代には堅果類（落葉樹のドングリ、トチの実、カシ類）が縄文人の最も主要な食料になりました。身近に豊富にあり、ある期間貯蔵でき、高カロリーです。（具体的な植物名レジュメ参照）

① 堅果類

日本列島の野生の植物は、アクや毒をもつので生では食べられないものがあります。とくにドングリの多くはアク抜きをしないと食べることができません。アク抜きは灰の使用や水漬けの他、土器で加熱することで、アクをもつドングリ、山菜、キノコなどが食べられるようになりました。動物の筋や内臓も煮込めば食べられます。土器の出現で食材が急増し、加熱するので衛生的にも向上しました。果実から酒を作っていたことも分かっています。

（貯蔵欠（京都大学構内、中貫柿ノ木遺跡、三内丸山遺跡）、アク抜き施設(栃木県・寺野東遺跡)、石皿、叩き石・磨き石、土器、埋甕式複式炉などをＰＰＴ映像資料で紹介された。）

② クリ～東日本では村の周辺にクリ林

青森県三内丸山遺跡などで、クリを栽培していたことが花粉分析、ＤNA 分析で明らかになっています。クリは食用だけでなく、その材は割りやすく、耐久性が高く、水湿に強いことから土木、建築部材として多用されました。（レジュメｐ.5～6 参照）

③ マメ類

縄文農耕があったかどうか、随分昔から議論を重ねてきたのですが、最近分析技術の急速な進歩で実態が分かるようになりました。ヤブツルアズキが栽培されてアズキになった、ツルマメが栽培されてダイズになったことが分かっています。(レジュメｐ.6)

（３） 道具の素材としての利用

適材適所～用途に応じて樹種を選んで使う

縄文人は適当に身近にある材料で作ることはせず、木の性質をよく知ったうえで、使用目的に合わせて適材を選び利用しています。例えば、トチノキはきめが細かく、水に強いので容器にしています。カゴは雪深い日本海側では水に強いマタタビをよく利用する、などです。（レジュメｐ.6）

ウルシ～中国原産、日本列島に自生せず

縄文早期から利用していたが、槍の先を固定するなど、はじめの頃は接着材として利用していました。土器の修理にも使用しています。

ウルシは中国から伝わった栽培種ですが、福井県鳥浜貝塚出土のウルシ製品は 12,600 年前に作られ、9,000 年前には、東日本を中心にかなり広まっています。これに対し、中国の最古例は 7,600 年前、韓国最古例は 2,400 年前なので、現時点では日本の鳥浜貝塚出土品が世界最古例です。

ウルシ技術は縄文人が開発したのではないかとの説がありますが、もともと日本に自生せず中国からの移入種なので、今後、大陸でもっと古い事例が発見される可能性があります。

（ウルシの使用例レジュメｐ.6）

（４）生活材としての植物利用

アサ～外来種

アサで作られた縄文人の布が出土しており、現代のアサのハンカチと同じ程度の密度で織られています。織り方は編布（アンギン）織として、東北から北陸の日本海側の地域に伝わる、織物と編み物の中間のような伝統的な技法で作られる織物で、近世まで作業着を作っていました。すごく手間がか

かり、毎日織っても一着分に１年以上かかるそうで、こうして作られた服は大事にしないとね。

薪（燃料材）

燃料としての薪がどれくらい必要か、実験しています。

実検１：土器ですと 40 分かかり、薪が 4 ㎏必要でした。一日２回煮炊きすれば年間３トン必要。

実検２：屋内炉で、氷点下から 10～15℃に上げて６時間維持するには薪 10ｋｇが必要。年間約２トンの薪が必要になると試算しています。

世界の先住民族の暮らしぶりをみると、同じ場所から薪を採り続けることで森が荒廃するのを防ぐために一時的に住む場所を移し、環境が回復するのを待って元の場所に戻ることをしています。縄文人もこのようにして森の荒廃を防いでいたのでしょう。薪にする材は、コナラ、クリ、カラマツが多いです。

（５）建築部材・施設用材としての植物利用

旧石器時代は移動生活なので家といえるようなしっかりしたものは作っておらず、テントのようなごく簡単なものであったと思われます。元北海道日本ハムファイターズの梨田昌孝監督が近鉄バファローズの選手だった 1986 年、大阪府藤井寺市の自宅建設用地から２万 2000 年ほど前のものとみられる住居跡が見つかり、珍しいことなのでニュースでも報道されました。遺跡を壊さないように土を嵩上げし、家を建てていただいています。構造のはっきりした旧石器時代の住居跡が出土するのは全国でも異例で、この場所はその後、「はさみ山遺跡梨田地点」と名付けられました。

縄文時代、定住するにはしっかりとした家が欲しい、そのため竪穴建物で住居や工房、掘立柱建物で高床式や平地式の倉庫、集会場、住居が建設されます。中には 100 畳もある超大型建物が建設された例もあり、このような超大型建物は北陸から東北の日本海側に多いです。この大型の建物は、柱の間隔が一定で、物差しを使用したのではと考えられます。北海道では雪が深いので階段が必要になります。最近の発掘で、屋根に土を載せた住居が見つかっています。断熱効果が高くなり、夏涼しく冬暖かく、屋根に花が咲いていたでしょう。

超大型建物は豪雪地帯に見られます。冬この建物に多くの人が集り、どんぐりの皮むきなど共同作業場として使用したかもしれません。

○　富山　不動堂遺跡　17ｍ×8ｍ　約 70 畳

○　青森　近野遺跡　　19.5ｍ×10ｍ

（６）植物資源を活用するために

建物を作るには建築材料を適期に確保し、素材を適正に管理し、必要な加工道具を持ち、建設技術を備えていることが必要です。例えば、木を伐る斧についてみれば、打製石器では伐採は出来ません。堅い石材を磨いて作りますが、縄文の時代になってこれが可能になりました。素材の特長を生かし、素材を使いこなせる知識と技術が備わって初めてできることなのです。

６．縄文人の精神世界～自然の恵みへの感謝と再生の祈り～

（１）縄文土器

世界最古級の土器で、青森県から 16,000 年前のものが発見され、ここから縄文時代が始まりました。

10,000 年～12,000 年前の土器は珍しくないくらい出土し、しかも形が複雑で多種多様です。世界的にも珍しい立体造形なのです。このような土器は新石器時代の土器にはありません。

縄文土器は見て楽しい土器ですが、鍋として使いにくいし、複雑な形は、調理には邪魔です。縄文人は、どうしてこのような土器を作り、煮炊きしたのでしょうか。

○　アメリカ現住民は、土器づくりは女性の仕事で、男性に見られてはいけない秘儀と考えていました。結婚する女性に求められる一番の条件は、土器づくりが上手なこと。土器がないと収穫物を食べることが出来ないからです。土器は単なる煮炊きの道具ではなく、命の源「食事」を作る大事な器であり、女性の体そのものと信じられたのです。

○　縄文人は、自然から食べ物をいただいて生きている。その食材を煮炊きする土器には、神への感謝のメッセージが込められているのでしょう。使い勝手よりも神様が喜びそうな土器を作ることが最優先課題だったのではないでしょうか。

人面付き土器

関東・中部地方では、女性又は赤ちゃんのような顔を付けた土器が流行します。もしかすると、縄文人も土器を女性の体と見立て、そこに幼児の顔を張り付けて、出産の無事を祈ったのかも知れません。母体から赤ちゃんが顔を出す出産の瞬間を表現したとされる土器も山梨県御所前遺跡から出土しています

（２）土偶

土偶は、10cm 前後～40 数 cm の土製の人型です。乳房や性器の表現により、女性の体を強調しているものが多く、幼児の土偶もあります。何のために作られ、どのように使われたかは謎ですが、縄文人が様々なことを祈ったり、願ったりする信仰の形であると考えられます。小さいのは屋内に、大きいものは屋外に飾っています。

いろいろな生き物たちへの想いを土偶にしています。その中にリアルな形をした「キノコ」があります。なぜこれを作ったのか。これは墓から出土したので、亡くなった人の好物ではなかったかとの見方もあるが、そうではないように思います。キノコは毎年シーズンになると生えてきます。人の知恵の及ばない自然の仕組みに対する畏敬の念を表わしているのではないかと私は思います。地震とか火山の噴火が起これば怖いですから、自然を司どる神へ捧げる対象が欲しかったのではないかと思うのです。

（３）　死と再生

（秋田県　大湯環状列石の写真により）環状列石といって石を円計状に並べた共同墓地は広場になったり、祭り場になったりします。直径 45mの同じ規模のものが２つ並び、中央は祭りの場です。石列の外側には建物群があり、祭りに使う品々が出土しています。なぜお墓にこれだけの労力をかけ整備するのか？ムラの集会や祭りに日常的に使用する他、たまには隣ムラの人びととも共同で何かをすることで、地域のネットワークづくりをしたのではないかと思われます。

東北大震災の直後、仮設の避難所に TV の取材が入り、記者が被災者に「大変ですね」と声をかけたところ、「いいえ、避難所にいる皆さんは子どもの時から一緒に楽しくやってきた仲間だから、辛いことも乗り越えられる」といっていました。やっぱり村の祭りで老いも若きも一緒になって何かをやるということが、一体感を作る。この課程を大事にすることが、いざというときに連帯感を生みだす大切なことであり、縄文人たちは普通に行っていたことなのです。効率や合理性だけを追求する現代の社会に欠けているところで、縄文人に学ぶべき規範であろうと思います。

７．縄文から弥生へ～なぜ農耕を始めたのか

（１）縄文後期・晩期に遺跡が激減したのはなぜか

縄文時代後期から晩期にかけ、東日本で遺跡が激減、特に中部・関東地方で顕著で、この理由に３つの仮説があります。

① 「寒冷化による食料難」説

② 「疫病の発生」説

③ 「栽培種のクリ・マメに頼り過ぎた」説

有力な仮説は③で、クリやマメの生産量が激減し、そのダメージが大きかったのではないかと思われます。

（２）弥生時代　紀元前 9,8 世紀～　稲作文化の開始

朝鮮半島から九州北部に水稲耕作が始まり、各地に広まっていきます。穀物は保存がきくので貯めるようになり、富になります。より多くの富を蓄積しようとして経済性、効率化を追求し、その結果格差社会ができてきます。現代社会の縮図のようなものができ、戦いが始まり、権力者が出現し、クニの成立へと進んでいきます。

社会には、いろんな価値観や生き方があることを、一度立ち止まって考え直してみることが必要な時期にきているのではないか。縄文人は 16,000 年という長い期間、戦争せずに過ごしてきた。こうした縄文人の生き方、暮らし方の中に、これから私たちが生きていく上でのヒントになることがあると思うのです。

ひと昔前の歴史学は、農耕社会は狩猟・漁労・採集社会より進化していると教えていました。南九州など、弥生時代になっても稲作文化の及ばない後進的地域であると教科書に書いてありました。

この２つの世界の関係は優劣ではなく、それぞれの地域に合った生活文化を評価しなければいけないと、考えます。

時間がなくなりました。ご静聴ありがとうございました。

【Ｑ＆Ａ】

Q1：薬用植物の利用、昆虫食の有無を教えて下さい。

A1：お酒を作っていたということをお話ししました、薬用にしたどうかの判断はむずかしいです。
添木をした骨が出土したことがあります。しかし薬用植物を使用したかどうかまでは証拠が残らないので、なんともいえません。成長未発達の人の骨が出土したことがあります。生まれつき障害があり、食べることも歩くことも難しいといわれる難病者で、介護され 20 才くらいまで生きたこと分かっています。その間、体によいなにか薬になるものを与えたとしても証拠が残らず、なんとも言えません。遺跡から植物の発見があれば、薬用になるかどうか皆さんから教えて下さい。
昆虫食についても同様に確めるのが難しいです。

Q2：アスファルトを接着剤に使用したとのことですが、燃料にはしなかったですか。

A2：アスファルトを接着剤に用いたことは、遺物に残るので分かりますが、燃料にしたかどうどうか
確認の方法がなく分かりません。

Q3：貝塚からいろいろなものが見つかるのは死者への供養の意味もあるのではないですか。

A3：貝塚に死者が埋葬されている例もあるので、供養の意味もあるかと思います。
縄文時代は農耕をしない時代が長く続いたのですが、農耕を知らなかったのではないかといわれることがあります。しかし、決してそうではなく、大陸からコメのことなど情報は得ているが、そのようにしようとしなかったと捉えています。日本の環境や受け入れ側の知識技術が対応できるかどうかを判断した結果からと考えます。

Q4：縄文時代と弥生時代の格差社会の有無は男女の社会的地位にどのように影響したのでしょうか

A4：縄文時代、アクセサリーは女性だけがつけています。特定の女性の役割があったのでしょう、弥生時代には九州に武装した女性がいたといわれますが、情報量が少なくよく分かっていません。古墳時代になると、日本には女性一人葬られた例がありますが、中国や朝鮮半島では確認されていません。

【田中克先生コメント】

今回、森里海のつながりをテーマした講座の中では、初めて考古学のお話しをまとまってお聞きすることができました。昨年度の講座のテーマでは「確かな未来の原点を探る」とし、内山節先生に「伝統回帰」についてお話しいただきましたが、今日は「縄文回帰」の重要性についてお話しを伺うことができました。

群馬県上野村に１年の内半年くらい住まわれている哲学者の内山節先生は、伝統回帰とは昔の生活に戻れというのではなく、昔の知恵や技を大事にしながら新しい現代のテクノロジーで循環型の社会づくりを目指し貢献することの必要性を説かれました。この考え方がいろいろなところで見直す必要性が高まっています。例えば昨今のように頻発する大型の自然災害に対し、防災はこれまでのように堤防をコンクリートで固める方式では技術的にも経済的にも難しいことが明らかになり、土木工学の分野においても江戸時代のように遊水地をできるだけ設け、水をいなすことが必要との認識が高まってきています。

自然を崇拝し、自然とともに暮らす縄文時代の知恵や精神性を学び直して現代に活かすことが、伝統回帰の源であると思います。本日の佐古先生のお話は、森里海のつながりの原点にも関わるものであり、多くの示唆を頂きました。ありがとうございました。

以上